

見た目→個性や発想 勝負

学園祭ミスコン 県内でも変化

学園祭の定番とされ主に容姿が基準となってきた「ミス・ミスターコンテスト」に、県内でも変化が起きている。見た目で判断する従来の手法を改め、自分の夢や社会課題など

時代合う形に 学生模索

をテーマに個性や発想力を競う形に切り替える大学が出てきた。見た目にとどまらない個人の強みをPRできる場にしよう、学生が新たな試みに挑戦している。



28～30日の「三扇祭」で個性に注目した新しいコンテストを開く高崎経済大の実行委メンバー

「その人自身の輝きに注目してほしい」。高崎経済大（高崎市）が28～30日に開く「三扇祭」は、出場者の個性や魅力に着目し、その夢をかなえる「ユニークネス・コンテスト」を初めて行う。

28日にファイナリスト4

人がそれぞれ音楽に関する夢をプレゼンし、パフォー

マンスを披露。観客は30日の質疑応答なども判断材料に、共感できる人や応援したい人に投票する。実行委員会はグランプリに選ばれた学生の夢の実現を手伝い、その過程を後日SNS上で配信する。

従来は模擬店を出店する学生団体から美男美女を決

める伝統イベント「ミセイチコンテスト」を行ってきたが、外見だけを重視するのは「時代にそぐわない」と改革を決めたという。学生なら誰でも出場でき、顔を隠しての参加も可能。ジェンダーへの配慮から性別申告も不要にした。考え方の押しつけにならないように「外見が自分の強みと思う人は、顔で勝負してもOK」としている。

発案者で実行委員会の山口莉奈さん（21）は「外見だけでなくその人をよく知らなくとも投票できてしまう。ルッキズム（外見至上主義）を変えたかった」と強調。「固定観念や『男らしさ』『女らしさ』にとらわれない考え方が広がる第一歩になるといい」と期待する。共愛学園前橋国際大（前橋市）も10月中旬の学園祭でミスコンを刷新し、SDGsに絡めたファッションショーを初めて実施した。

学生から集めた古着約300着を使い、チームで雰囲気を作った着こなしを考え、その発想力を披露する内容。使った古着は開発途上国の子どもにもポリオワクチンを提供する活動のために寄付する。

実行委員長の佐藤陽菜さん（20）によると、コロナ下で従来の文化祭を経験した学生がいなくてもきつかけに内容の一新を図った。「見た目を重視することの悪い悪いで変更した訳ではない」とした上で「一人一人の個性に寄り添う共愛の校風を大切にしようと思った」と説明する。

ミスコンを巡っては、上智大が2020年に「ミス・ミスターソフィアコンテスト」を廃止、自己PRや社会課題の発想力を競うコンテストを新設するなど県外でも模索されている。

（水村希英）